

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 3 部門第 2 区分
【発行日】 平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公表番号】 特表 2002-514201(P2002-514201A)
【公表日】 平成 14 年 5 月 14 日 (2002.5.14)
【出願番号】 特願 平 10-534630

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 35/00

【F I】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】 平成 17 年 1 月 14 日 (2005.1.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 補正の内容のとおり

【補正方法】 変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年1月14日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第534630号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 テキサス 78701, オースティン,

ウエスト 7ティーエイチ ストリート 201

名称 ボード オブ リージェンツ, ザ ユニバーシティ オブ
テキサス システム

3. 代理人

住所 〒540-6015 大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号

クリスタルタワー15階

A748 氏名 ~~(10748)~~ 弁理士 大塩 竹志

電話(大阪) 06-6949-3910

4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

6. 1 請求の範囲を別紙のとおり補正します。

以上

審査 〇

請求の範囲

1. 生物学的有効量の凝固欠損組織因子化合物を含有する組成物であって、該組織因子化合物は、多くとも全長の天然の組織因子の凝固において100分の1の活性であり、そしてその生物学的半減期を増大するように改変されており；ここで、該凝固欠損組織因子化合物は、標的部分に付着していない、組成物。
2. 動物の腫瘍血管系における凝固を促進することに使用するための、請求項1に記載の組成物。
3. 動物の腫瘍血管系における凝固を促進することによって脈管形成した腫瘍を処置するにおいて使用するための医薬品の製造における、請求項1または2に記載の組成物の使用。
4. 動物の腫瘍血管系における凝固を促進することによって脈管形成した腫瘍を処置するにおいて使用するための医薬品の製造における、生物学的有効量の凝固欠損組織因子化合物を含有する組成物の使用であって、ここで、該凝固欠損組織因子化合物が、多くとも全長の天然の組織因子の凝固において100分の1の活性であり、そして標的部分に付着されていない、使用。
5. 前記凝固欠損組織因子化合物が、その生物学的半減期を増大するように改変されている、請求項4に記載の使用。
6. 前記凝固欠損組織因子化合物が、不活性のキャリアタンパク質、不活性の非タンパク質キャリア分子、不活性のキャリア抗体または該不活性のキャリア抗体の部分への付着によってその生物学的半減期を増大するように改変されている、請求項4または5に記載の使用。
7. 前記凝固欠損組織因子化合物が、多くとも全長の天然の組織因子の凝固にお

いて100,000分の1の活性である、請求項3～6のいずれか1項に記載の使用。

8. 前記凝固欠損組織因子化合物が、短縮型の組織因子化合物である、請求項3～7のいずれか1項に記載の使用。

9. 前記凝固欠損組織因子化合物が、第VII因子を活性化する能力において欠損がある変異体組織因子化合物である、請求項3～8のいずれか1項に記載の使用。

10. 生物学的有効量の少なくとも1つの第VIIa因子、第VII因子の活性化因子、または抗ガン剤と組み合わせられる、請求項3～9のいずれか1項に記載の使用。